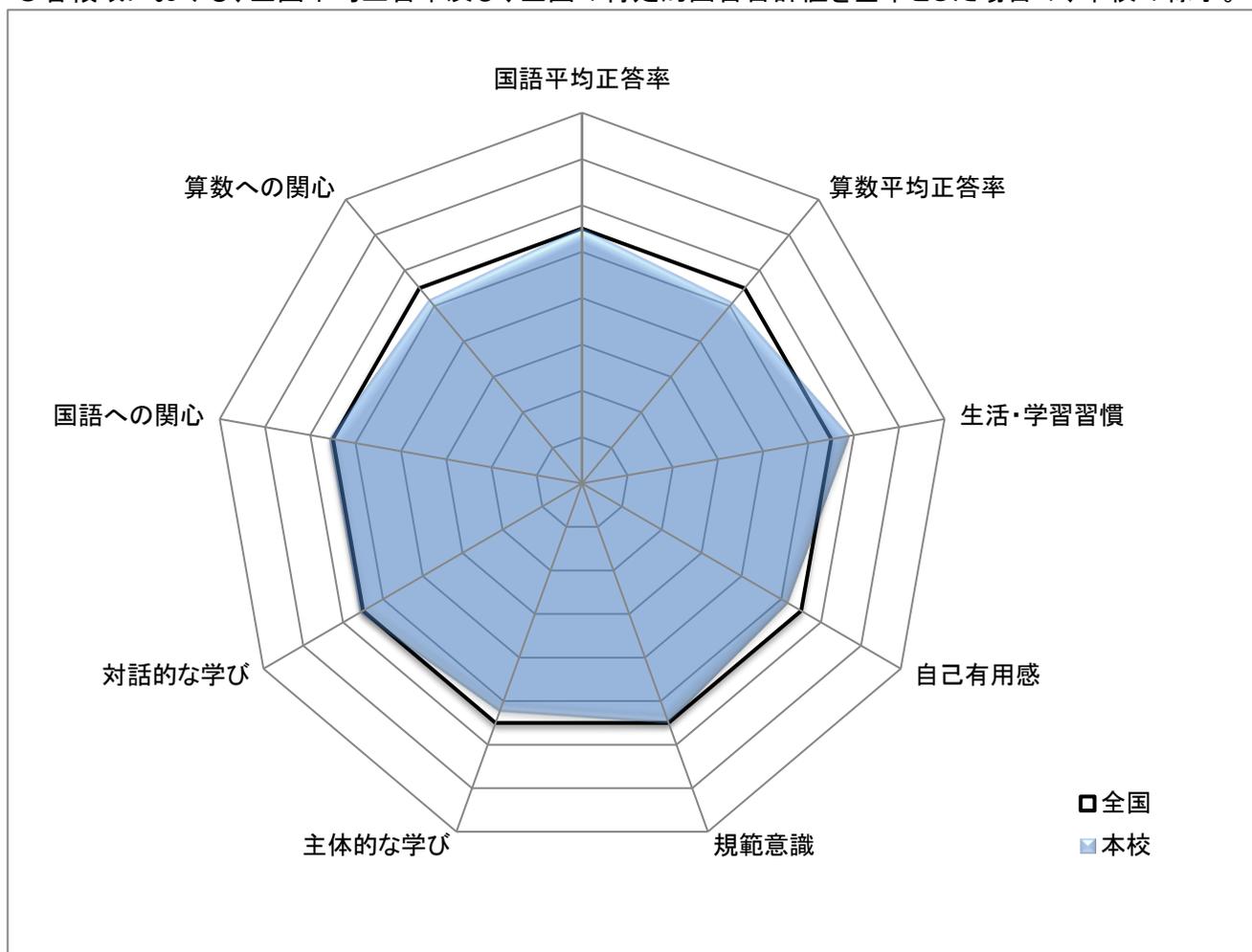


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

《現状分析 国語》
 ・国語は、全国平均と同等、都平均からは3%下回る結果となった。
 ・文章を読み取ることも、文章を書いたり、適切な文章を選んだりする問題の結果が平均を下回っている。
 《現状分析 算数》
 ・算数は、全国平均からは5.1%下回る結果となった。特に「C変化と関係」の領域の問題は、都平均の12%下回っている。
 ・「算数の勉強は大切だと思うが、勉強は好きではない」という傾向がある。

《授業改善のポイント》

《授業改善のポイント》
 ・学習の振り返りを文にして書く活動を充実させることで、自分の考えを文にして書く経験を継続的に行っていく。
 ・「できる」「わかる」まであきらめずに取り組み、目標を達成できたことについては褒め励ます指導を行う。
 ・学習規律を徹底し、安心して学べる授業を展開するとともに、児童が主体的・対話的に学習に取り組めるように、意図的・計画的な指導を行う。
 ・自己有用感を高めるために、教育活動を通して教師は児童一人一人の「よさ」を見つけて認め、自信や意欲をもって生活できる場を整える必要がある。

《チャートの特徴》

・生活・学習習慣は全国平均を上回り、家庭の協力も得て、朝ごはんをしっかりと取り、規則正しい生活をして過ごしていることが分かる。
 ・算数の学習への関心及び平均正答率が全国平均よりも下回っている。
 ・自己有用感が全国平均よりも下回っている。
 ・対話的な学び（友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動）は全国平均に達しているが、主体的な学びや自分の考えを深める姿勢が全国平均よりも下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

・早寝早起き、食事をきちんととるなど、児童が基本的な生活習慣を身に付け、学校で元気に過ごせるよう、学校から地域や家庭に積極的な情報発信、啓発を行う。
 ・保護者に家庭学習の意義を伝え、継続した取組を促す。